



UNITY SERIES

300

取扱説明書

SOUND HOUSE INC.



株式会社サウンドハウス

Professional Sound Equipment Specialist

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958

TEL:0476-22-9333 FAX:0476-22-9334

はじめに

この度は UNITY300 をご購入頂きまして誠に有り難う御座いました。製品をご使用になる前に必ずこの取扱い説明書をお読みにになり、UNITY300 の性能をフルに発揮させ末永くご使用ください。

UNITY300 は低ノイズのマイク・プリアンプを内蔵したモノラル4チャンネルとステレオ4チャンネルのライン入力がついています。各マイクチャンネルには入力のゲイン・コントロール、インサート・ジャック、2バンド・イコライザー、2系統のポスト・フェーダーAUX センド、パン・コントロール、さらにロータリー・レベル・コントロールがついています。48V のファンタム電源（スイッチで ON/OFF 可能）は XLR のマイク入力コネクターすべてに対応します。

ステレオ・チャンネルには入力ゲイン・コントロール以外のモノラル・チャンネルにあるすべてのコントロール機能がついています。

メイン L/R のレベル・コントロールがついている 2 系統のステレオ・リターンはエフェクト・リターンとしても使用することができます。

ピン・タイプのステレオ・テープ入出力も標準装備され、センドは L/R ミックスへ送られます。メインの L/R 出力はバランス・タイプのフォン（TRS）です。ヘッドフォン回路はマスター・レベルに影響を受けない信号を送り、ヘッドフォン、その他のステレオ出力をドライブします。

24 個（12 個×2）の LED メーターが L/R 出力のレベルを表示します。

コントロール機能

1. ライン入力

フォン／バランス・タイプのハイ・インピーダンス入力でハイ・レベルの信号用です。チップはホットで、アンバランス入力にも対応します。この入力は 10dB のパッドを通して（下記 2.）に接続されていますので、これらの入力を 2 つ同時に使用することはできません。

2. マイク入力

XLR／バランス・タイプのロー・インピーダンス・チャンネル入力でマイクやその他のロー・レベル・ソースに適しています。入力は 2 番ホットです。ゲイン調節のレンジ幅が広い為、 -10dBu (245mV) の信号まで扱うことができます。

3. インサート

ステレオ・フォン・ジャックから外部機器を信号回路にインサート接続します。チップはセンド信号、リングはリターン信号です。ジャック内のスイッチは通常、プラグが挿入されるまではセンドをリターンに接続しています。

4. ゲイン

入力のゲインを変えて幅広いダイナミック・レンジを可能にします。入力ゲインを適切に調節することにより、S/N 比を最善にすることができます。

5. HI EQ

シェルビング・タイプのイコライジング機能で高域レベルを 10KHz において $\pm 15\text{dB}$ 可変できます。ソースの内容にあわせてノイズを目立たなくしたり、音にメリハリを与える時などに使われます。

6. LOW EQ

シェルビング・タイプのイコライジング機能で低域レベルを 70Hz において $\pm 15\text{dB}$ 可変できます。信号に厚みを持たせたり、濁った音をクリアにする時などに使われます。

7. AUX1

AUX1 のミックスに流れる信号のレベルを調節します。これはポスト EQ／レベルで、エフェクト・センドとして使用します。ステレオ・チャンネル（チャンネル 5～12）では左右の信号のモノ・ミックスとなります。

8. AUX2

AUX2 のミックスに流れる信号のレベルを調節します。これもポスト EQ／レベルで、もう一つのエフェクト・センドとして使用します。ステレオ・チャンネル（チャンネル 5～12）では左右の信号のモノ・ミックスとなります。

9. PAN

L/R のステレオ定位を設定します。ステレオ・チャンネルにおいてバランス・コントロールの働きをします。

10. LEVEL

チャンネルの出力レベル・コントロールです。このレベルはゲインをオフから +20dB まで調整することができます。最善の S/N 比を実現する為の最適なポジションはユニティー・ゲイン（オフ）のポジションです。

11. ヘッドホン・レベル

ヘッドホンの出力レベルを調節します。マスターの L/R レベル・コントロールから独立しており、補助の L/R 出力が必要な時にも使用できます。

12. リターン入力

ハイ・インピーダンスのフォン入力で、ライン・レベルの信号用です。これはエフェクト・リターン用にデザインされていますが、予備のステレオ入力としても使用できます。R の入力ジャックに何も接続されていない場合、LEFT/MONO の入力信号が左右両方の入力に供給されます。

13. ステレオ入力

ハイ・インピーダンスのライン・レベル信号用のフォン入力で、テープや CD、シンセサイザーに使われます。RIGHT（下段）の入力ジャックに何も接続されていない場合、LEFT（上段）の入力信号が左右両方の入力に供給されます。チャンネル入力がモノラルの場合、それぞれのチャンネルに入力します。

14. AUX OUT

AUX MIX のバランス・フォン出力ジャックです。通常はエフェクターをポスト・レベルでドライブするために使われますが、モニター・システム用の出力として使うこともできます。出力レベルは独立したチャンネルの AUX センド・コントロールで設定します。

15. メイン出力

左右のミックスのバランス／フォン出力です。出力レベルはマスター L/R コントロールで設定します。

16. テープ入力／出力

L/R のメイン出力から信号が流れ、ピン仕様のテープ出力ジャックからステレオ・テープ・デッキの入力に信号を送ります。テープ入力ジャックはテープ・デッキやCDプレーヤーの出力からステレオ入力を受けます。入出力レベルは-10dB です。

17. 電源

ミキサーのメイン電源スイッチです。ユニットの電源が入っていれば、LED インジケーターが点灯します。

18. ヘッドホン出力

ステレオのフォン・ジャックからステレオ・ヘッドホンをドライブする信号を送ります。出力レベルはマスター・レベル・コントロールから独立したヘッドホンのレベル・コントロールによって設定します。レベル調整付の予備ステレオ出力としても使用できます。端子はチップがL、リングがR、スリーブがグランドに接続されています。

19. リターン・レベル

ステレオ・リターン信号のレベルを設定し、L/R ミックスに送ります。

20. テープ・レベル

テープ信号のレベルを調節し、L/R ミックスに送ります。

21. LED メーター

2 列に配列された計 24 個の LED で、メインの L/R 出力レベルをモニターします。0dB のリファレンス・レベルは+0dBu に設定されています。このレベル表示はアンバランス出力レベルを基準にしてありますので、バランス出力時には LED 表示よりも 6dB 程高く出力されます。

22. マスター LEFT/RIGHT

メインの L/R 出力レベル・コントロールで、左右のメーターでレベルをモニターします。コントロールの最適なポジションは LED が 0 を表示するユニティー・ゲインのポジションです。

23. ファンタム電源

すべての XLR 入力に 48V DC を供給し、ファンタム電源を必要とするマイクに電源を供給します。ファンタム電源を使用するときは、アンバランスのダイナミック・マイクやその他のデバイスでファンタム電源を許容できない物に関しては XLR 入力端子に接続しないように注意してください。ライン入力のジャックは 48V のファンタム電源に接続されていないので、すべての入力（バランス／アンバランス）に対して何ら影響を受けません。

UNITY300 アプリケーション

UNITY300 のミキサーはライブやレコーディングなど幅広い用途に使用できます。

以下に典型的な使用方法を幾つかあげてみます。

ライブ

1. マイクやその他のロー・インピーダンス・ソースをマイクの XLR 入力に接続します。例えばエレキ系の楽器のようなハイ・レベルのライン入力を接続する際はライン入力に接続します。ステレオ・ソース（テープやCDなど）は4つのステレオ・チャンネルの何れかに接続します。
2. メインの L/R 出力をパワー・アンプの入力に接続します。
3. モニターを使用する際はミキサーの AUX 出力からモニター用パワー・アンプの入力に接続します。AUX 出力はポスト・チャンネル・レベルで、個々のチャンネル・レベルが調節されるとレベルが変化します。
4. エフェクターを使用する際は AUX 出力をエフェクターの入力に接続します。モニターを使用していなければ両方の AUX 出力をエフェクト・センドとして使用することができます。
5. エフェクターの出力を RETURN 2/1 の入力に接続します。この時ステレオのチャンネルがオープンになっていれば、それらのチャンネルもリターンに使用できます。その際はリターンとして使用されているチャンネルの AUX センド・レベルが上がりすぎないように気をつけてください。フィードバックを起こす原因となります。
6. テープ・レコーダーをピン仕様のテープ入力及び出力ジャックに接続します。シングル・デッキを録音・再生の両方に使用している場合は、レコーディング時にミキサーのテープ入力のレベル・コントロールを下げないとフィードバックを起こします。高域や低域のイコライゼーションが必要な場合は、ステレオ・ラインのチャンネルをテープ入力に使用できます。リターン1と2を交互にテープ入力に使用することもできます。

レコーディング

レコーディングの接続は既に説明したライブの使用方法とほぼ同じですが、いくつかの異なる点を下記にあげます。

- 1.レコーディングのトラックは、使用するマイク又はライン・レベルの信号に応じたジャックに入力ソースを接続します。ミックス・ダウンをする際にはマルチ・トラック・レコーダーの出力をライン入力に接続します。
- 2.L/R 出力をテープ・レコーダーの入力に接続します。さらに、AUX のセンドは出力としても使用できます。出力をさらに増やしたい時には、個々のチャンネルのインサート・ジャックをダイレクトに出力に使用できます。これがプリ EQ／フェーダーです。
- 3.左右の出力を 2 トラックのミックス用デッキの入力に接続します。グラフィック・イコライザーやコンプ・リミッター、またはエンハンサーを使用しているときは L/R 出力共に接続します。チャンネルのインサート・ジャックには必要に応じて各種エフェクター等を接続します。
- 4.コントロール・ルームのモニター・アンプか、ヘッドホンのどちらかをヘッドホン出力に接続します。
- 5.エフェクト・デバイス入力は AUX1 または 2 の出力に接続します。
- 6.エフェクターの出力はリターン 1 または 2 の入力に接続します。使われていないステレオ・チャンネルはリターンとしても使用できますが、AUX のセンド・レベルが上がりすぎないように気をつけてください。フィードバックを起こすことがあります。

